

表 2 - 3 品質管理基準及び規格値(抜粋)

項番	工種	種別	試験(管理)区分	試験項目(管理項目)	試験方法	規格値	試験基準(管理基準)	管理方法				
4	下層路盤	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-5	粒状路盤：修正CBR20%以上(クラッシュラン鉄鋼スラグは修正CBR30%以上) アスファルトコンクリート再生骨材を含む再生クラッシュランを用いる場合で、上層路盤、基層、表層合計厚40cm以下に示す数値より小さい場合は30%以上とする。	施工前、材料変更時。	試験成績表等により確認する。				
				骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照						
				土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：6以下						
				鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [4]-16	1.5%以下						
				道路用スラグの呈色判定試験	JIS A 5015	呈色なし。						
				その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121			再生クラッシュランに用いるセメントコンクリート再生骨材は、すり減り量が50%以下とする。			
		施工	必須	現場密度の測定	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4]-185[4]-191 砂置換法 (JIS A 1214) 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用できる	最大乾燥密度の93%以上。 X10 95%以上 X6 96%以上 X3 97%以上 歩道箇所：設計図書による。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</li> <li>・締固め度は、10個の測定値平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</li> <li>・定期又は随時</li> <li>(3000㎡以下は3個、3000㎡を超える場合は1000㎡につき3箇所とする。につき1個追加する。)</li> <li>(ただし、掘削面積が300㎡未満の場合監督職員の承諾を得て省略することができる。)</li> <li>・複数路線の場合は、各路線毎に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄鋼スラグには適用しない。</li> <li>試験成績表等により確認する。</li> <li>・CS：クラッシュラン鉄鋼スラグに適用する。</li> <li>試験成績表等により確認する。</li> <li>・再生クラッシュランに適用する。</li> <li>試験成績表等により確認する。</li> </ul>			
					ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4]-210				・全幅、全区間で実施する。	・確認試験である。 ・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。	
					その他	平板載荷試験	JIS A 1215				1,000㎡につき2回の割で行う	・確認試験である。 ・セメントコンクリートの路盤に適用する。
					骨材のふるい分け試験	JIS A 1102				・異常が認められたとき。		
					土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：6以下					
					含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。				・確認試験である。	

項番	工種	種別	試験 (管理) 区分	試験項目 (管理項目)	試験方法	規格値	試験基準 (管理基準)	管理方法
5	上層路盤	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法 便覧 [4]-5	修正CBR 80%以上 再生骨材含む場合90%以上 40で行った場合80%以上。	・施工前、材料変更時。	試験成績表等により確認する。
				鉄鋼スラグの修正CBR試験	舗装調査・試験法 便覧 [4]-5	修正CBR 80%以上		・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 試験成績表等により確認する。
				骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照		試験成績表等により確認する。
				土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI:4以下		・ただし、鉄鋼スラグには適用しない。 試験成績表等により確認する。
				鉄鋼スラグの呈色判定試験	JIS A 5015 舗装調査・試験法 便覧 [4]-10	呈色なし。		・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 試験成績表等により確認する。
				鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法 便覧 [4]-16	1.5%以下		・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 試験成績表等により確認する。
				鉄鋼スラグの一軸圧縮試験	舗装調査・試験法 便覧 [4]-12	1.2Mpa以上(14日)		・HMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 試験成績表等により確認する。
				鉄鋼スラグの単位容積質量試験	舗装調査・試験法 便覧 [2]-106	1.50kg/L以上		・MS:粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS:水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。 試験成績表等により確認する。
				その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121		50%以下
		硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	IS A 1122		20%以下	試験成績表等により確認する。		
施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法 便覧 [4]-185[4]-191 砂置換法 (JIS A 1214) 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の 場合のみ適用できる。	最大乾燥密度の93%以上。 X10 95%以上 X6 95.5%以上 X3 96.5%以上	・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。 ・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。 ・定期又は随時 (3000㎡以下は3個、3000㎡を超える場合は1000㎡に4箇所とする。につき1個追加する。) (ただし、掘削面積が300㎡未満の場合監督職員の承諾を得て省略することができる。) ・複数路線の場合は、各路線毎に行う。			
(次頁に続く)								